

1 「ボランティア精神」

アメリカ人は、ボランティア精神が日本人と比べて旺盛な国といわれているが、過去の歴史から見てそうならざるを得ない感があります。つまり、この国で生きるために人々の血の中に流れている、ボランティア精神はアメリカにとってそういうものだと感じるからです。その時代、人々は親戚縁者の誰もいない中、多くの場合は両親と子供という家族単位でこの地へやって来ました。新天地を求め大陸を移住してきたが、時にはには知らない町で窃盗や強盗に会うこともあったでしょうが、しかし、基本的に全く見ず知らずの他人に助けられる、逆に助ける、それがなければ生き延びていけなかったのではないのでしょうか。

ウエスタン物語では幌馬車が川底にはまり中々脱出できないシーン、また、西部劇でもよく見かけたような気がします。母親と子供を乗せた馬車がぬかるみにはまり脱出できない場面、発熱した子供を医者のあるところまで連れていかなければ命が危ない。母親は、必死で何キロも離れた隣町まで助けを求めに行かなければならない。助けを求められたら、相手が誰であろうと手を貸す、助け合う精神があったからこそその時代を乗り越えられたのではないのでしょうか。他人の手を借りたり、困ったときは誰にでも手を貸すということは、彼らにとって当たり前のことだから。とはいったものの。今回、ハンフォード市での私たちを歓迎してくれた、「フレンドシップディナー」は、本当に頭の下がる思いで帰ってきました。総勢 100 名を超える市・姉妹都市協議会・ホストファミリーなどの関係者が集ったわけですが、市を挙げての歓迎ぶりであり、感動したのは私だけではないはず。ハンフォード西高校体育館において、約 3 時間に亘る歓迎ディナーでありましたが、それぞれホストファミリー自慢の家庭料理を持ち込んでのサービス。(市からは一銭も補助なし) グラタン、ビーフステーキ、チキン、Noodle、コーンスープ、ホットドック、タコス、ピザ、ハンバーガー、ポテトフライ、ホットケーキ、 サンドイッチ・・・そして、民族舞踊・歌・ダンス・・・地元高校生その他、その家族、多分、父親兄弟だと想像するがギターなどを持ち込みそれぞれ披露してくれた。日本ではどうだろう？ 親、兄弟までが出演してくれるだろうか？

来年、彼ら（高校生 6 人、大人 3 人）がせたな町に来るわけですが、ウエルカムパーティーをひと工夫しなければならぬと痛感したところである。



民族舞踊

自慢の料理

2 「ホストファミリー」

次に、Quezada family と Raquel Simas 宅に 5 泊 6 日間ホームステイさせていただいたが、その感想を述べます。

Quezada family を紹介します。Callie (ハンフォード西高校生：16 歳)、David (Callie の父)、Alice (Callie の母)、祖母 (90 歳：別居)、Raquel (Callie の叔母：小学校教師：別居)。

一期一会ということばがあるが、「その機会を一生に一度のものと心得て、主客ともに互いに誠意を尽くせ」という茶会からの心得からきていると聞き及んでいるが、正に、一生に一度限りの出会いとなるやも知れぬ、この私に対し、6 日間のおもてなし。今言われているところの「心づかい」や「思いやり」がはっきりと見えた感があります。

Raquel 宅から Callie 宅へ (約 400m) 移動。朝・夕の食事は Callie 宅でします。

私は、居間のソファで 2 匹の猫と遊んでいると、必ずキッチンに呼ばれます。キッチンテーブルと椅子が 4 個あります。コーヒーは、ここで飲めと言うのです。何で? ・ ・

David が楽しそうに朝食を作る姿、その手伝いをする Alice と Raquel の様子を見てみると、さらに、David が私に言いました。「どうだ・楽しいだろ」! と思った感じでした。それは、あなたも俺たちの家族だから一緒に楽しめということなのです。私は、納得しました。

彼らは本当に楽しそうに、朝食や夕食を作るのです。そして、その台所の傍らで、Callie と祖母が楽しそうにおしゃべりをしながら待っているのは何とも微笑ましい限りです。

そして、全員、居間の食卓に移動、3 世代みんなで賑やかに会話をしがるの朝食、至福のひとつです。勿論、テレビなんか一度も見ません。コミュニケーションあるのみです。

家族関係の安定化は家族間のコミュニケーションの在り方いかんにかかっていると書いても過言ではないでしょう。

朝食が終わり一息ついたところで、祖母は 100m 位離れた自分のアパートへ帰る。この時、Callie が祖母の手を引いて送るのである。土・日は、いつものことらしい。

これが、アメリカの「家族の絆」というものなのか・・・因みに Callie は四女の末っ子。(姉は、既にそれぞれ独立している。)

今、日本では 150 万人とも、300 万人以上にも達しているのではないかという“ひきこもり”ですが、アメリカでは少ないといわれている。日本の場合、家族の絆が逆に強いしがらみとなって、個々として自立する妨げになっている例はないか。また、ニートやパラサイトシングルといわれる親族同居未婚者などにしても親が子供を丸抱えしてしまう状況は、社会への関心や心配りを二の次にしてしまうし、家族中心の密着性に原因があるといわれている。

その点、アメリカや多くの先進諸外国では、大人と子供の棲み分けや教育などがきちりしています。日本は、大人も子供も同じ世界で生き、大人でも子供みたいな人がいるし、大人が大人の世界に子供を引き込んでいたりする 경우가多々あります。特に芸能社会などでは顕著に表れていると思うが、一般社会生活においても棲み分けはきちりしていません。非常に曖昧なところが多い。

また、今の日本の大人は、子供を可愛がり過ぎたり、過度に大事にしたり、躾や家庭教育がきちりされていないように思う。

さらに、紹介します。家族や趣味の時間を大事にするアメリカ人、自分たちも休日は、徹底して家族で楽しむことを心掛けていると思う。日本人もこれは、是非見習うべきであろう。彼らは、特別のことをしたとっていないかも知れない。

私達 (David、Alice、Raquel、高野) は、金曜の夜、隣町 Fresno 市へ行きました。毎年、10月に2週間開催される Festa (お祭り) の見学です。

Callie は、自分のメガネや授業資料を購入するため同行せず。

高速で約1時間走ると地元高校生が経営の農園、農場見学の他、出店や絶叫マシン、ゲームコーナーなど催しものが沢山あり、特設会場としての規模も人出もすごい。そこで、彼らが、まるで子供のように、はしゃぐ姿を見るのです。ギター演奏・歌が始まると、Raquel に無理やりダンスに誘われ汗をかく私。その、横では David、Alice 夫婦も仲良く楽しそうに踊っている・・・気が付くと既に時計は22時を回っていた。先ほどお祭りの見学と書きましたが、正確にはお祭りに参加でした。

翌、土曜日、私達 (David、Alice、Callie、Raquel、高野) 一行は、Raquel の車で朝から Winery 巡り、三カ所にて赤・白のワインを tasting。しかし、あの量は、もはや tasting ではない。ワイン好きな私でも、二カ所目でギブアップ。David、Alice 夫婦は、三カ所で1本近くは飲んだだろう。これから、今日の目的地 Pismo Beach (西海岸海水浴場) へ向かうのである。車内では先ほどまで、彼らの歌声を充分聞かされてきたところであるが、wine が加担し、David、Alice 夫婦は益々ヒートアップ、加えて、勿論、アルコールは一切飲んでいないが、Callie と Raquel も負けてはいません。どうして彼らはこんなに歌が好きなんだろう。

Pismo Beach、Morro Bay など西海岸を巡りを楽しみ、3時間の帰路に・・・ラジオでミュージックが入ると彼らもスイッチ ON! 熱唱・・・高校生が親と一緒に熱唱する姿を見たとき、この家族は、正にテレビで見るアメリカを象徴する家族なのだと確信した。

そして、日曜朝、今日も快晴、暖かい。私達 (Alice、Callie、Raquel、高野) 一行は、Raquel の車で Yosemite National Park へ向けて出発した。David は、用事があり4人での小旅行となった。片道約3時間、昨日と同じ位の距離を走行するようです。やっぱり、昨日と同じく後部座席の Alice、Callie が歌い出すと Raquel も参加。しかし、今日は、David がいないので若干ボリュームが低いような気がするが、往復、この調子である。最後に高野も歌えと言われた。今日は、そうくると思っていたので、用意していた。「上を向いて歩こう」と「明日があるさ」(坂本九)の2曲を披露した。

18:30 頃、David から Callie へメールが入る。バーベキュー用意するので、今何処走っているかとのこと。

一行は、19時過ぎ、Callie の家に到着。ホームステイ最後の晩餐会となっていくわけだが・・・私のために、大事な週末にも拘らず、しかも、私財で以って、こうして家族全員で接待してくれる Quezada Family と Raquel Simas に感謝の気持ちで一杯である。

今回、このホストファミリーが、いろんな意味でアメリカを象徴する家族であり、そういう家族と巡り合えたことを大変嬉しく思うところである。

因みに、来年、Callie がせたな町に来ます。



朝食の様子

最後の晚餐

3 「今後の交流について」

瀬棚商業高等学校は、平成24年度末を以って、閉校することになっているが、ハンフォード市との今後の交流について、協議をしてきたので報告します。(会場は、市内の Irwin Street Inn)

[出席者]

<p>せたな町 Hanford 市協議会</p>	<p>鷗入姉妹都市協議会会長、清原瀬棚商業高等学校長、高野教育長 Alice 会長、Brent・グラハム(前会長) David・エイヤーズ(前市長他協議会メンバー4・5人 通訳 Minako(昨年もせたな町に来ている)</p>
<p>City of Hanford</p>	<p>Hilary M.Straus(City Manager)、Willam L.Fishbough(高校の教育委員長)、市議会のメンバー</p>

[協議事項]

- 1) 瀬棚商業高等学校の閉校について
2012 年度末を以って閉校することを説明した。
- 2) 今後の姉妹都市交流について
 - ・せたな町としては、今後も姉妹都市として交流を続けていきたい旨説明。
 - ・高校生の修学旅行としての交流は、今回が最後となるが、今後、選抜により中学生をも含めた若い人たちの交流を検討したい。
 - ・現在、せたな町には、ハンフォード市から車で2時間ほど離れた市 (Modesto) からの英語指導者 (ALT) が1名いる。今後、ハンフォード市からの派遣を望む。
 - ・せたな町としては、今後も当協議会への補助を予定している。

3) 来年のハンフォード市からの訪日等について

- ・(Hf) 姉妹都市協議会のメンバー、予算ともに年々減少傾向にあるが、今後もできる限りせたな町との交流を続けたい。
- ・高校生については、(HF) 3校選抜・面接により決定しているが、親の負担が多いので減少傾向にある。
- ・来年は、高校生6人、協議会から3~4人予定している。
- ・時期は、高校生の希望により、7月にせたな町で Festa(温泉まつり)があるので、それに合わせて行きたい。
(瀬棚商業高等学校としても、夏休みに入る前にしてほしい。)
- ・以前、生徒の絵画の交換を行っていたが、復活させたい。

以上、概要です。



協議会場
(ホテル)



協議の様子